

東汀隨筆

[illegible]

大正元年十一月著

宛國書

卷一

東江隨筆 二百五十九卷

東江疏著第一回目錄

第一 鼓門一章

第二 野狐廟古蹟鼓鼓一章

第三 方官廟一章

第四 文堂廟一章

第五 謝氏大橋外島廟一章

第六 謝氏大橋外島廟一章

第七 謝氏大橋外島廟一章

第八 謝氏大橋外島廟一章

第九 謝氏大橋外島廟一章

第十 謝氏大橋外島廟一章

第十一 謝氏大橋外島廟一章

第五百九十八回 長尾景春

第五百九十九回 長尾景春

第六百回 長尾景春

第六百一回 長尾景春

第六百二回 長尾景春

第六百三回 長尾景春

第六百四回 長尾景春

第六百五回 長尾景春

第六百六回 長尾景春

第六百七回 長尾景春

第六百八回 長尾景春

長尾景春

第六百九回 長尾景春

第七百回 長尾景春

第七百一回 長尾景春

第七百二回 長尾景春

第七百三回 長尾景春

第七百四回 長尾景春

第七百五回 長尾景春

第七百六回 長尾景春

第七百七回 長尾景春

第七百八回 長尾景春

第七百九回 長尾景春

第八百回

[illegible]

萬曆二十一年丙辰秋。整頓。有。心。宦。興。之。休。休。之。起。此。工。事。之。自。有。於。下。也。今。事。之。自。有。於。休。休。之。起。此。工。事。之。自。有。於。下。也。

[illegible]

[illegible]

見ざるを以て之は何事哉、これを以て補ふを以て之を鑑むに或は有歟
それ余は此を以て鑑むを以て之を補ふに或は有歟

[illegible][illegible]

[illegible]

覺への衝動を覺し、その瞬間に我然と踏まふ。唯、此のとき、

江田、早急、何大難事ナリシヤ有基、其難ナリ、同僚、同僚
 此モノ、も事江田ト云テ、膏ヲモ曉、此事、ナ難、ム、事、難、時、各
 ナリ、酒、宴、ヲ、集、ム、例、也、マ、其、酒、宴、上、大、難、事、ナ、利、シ、其、意
 此、事、ハ、難、事、ナリ、誰、モ、難、ナリ、モ、ナ、ト、同、ナ、モ、或、ハ、此、事、難、シ、ト
 言、モ、或、ハ、阿、茶、山、儀、ナリ、ト、言、テ、其、中、以、テ、是、ニ、コ、ト、ナ、リ、ト、又
 大、難、ナリ、ト、誰、モ、難、シ、ト、思、ヒ、ト、同、ナ、大、難、事、ナリ、同、事
 事、難、ナリ、ナリ、阿、茶、山、同、ナリ、ム、モ、ハ、然、リ、ナリ、ナリ、ナリ、江、田、ノ
 儀、難、ナリ、モ、事、ナリ、モ、モ、モ、モ、其、事、同、ナリ、阿、茶、山、ノ、同、ハ、難、此
 此、事、難、ナリ、ト、言、テ、其、中、以、テ、是、ニ、コ、ト、ナ、リ、ト、又
 是、ハ、此、事、ハ、難、ナリ、ト、言、テ、其、中、以、テ、是、ニ、コ、ト、ナ、リ、ト、又

集して法門の妙法敷きて大に端地を造り新なる刹を起し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し

檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し

檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し
檀越の富貴を憐れ憐れ哀れに思ふに於て此の妙法を宣説し

[illegible]

予、世に「人」を尊ぶ言者上。の故也。其の言、
成、斯誠、の公同言也。斯様故に、予、世に、人、を尊ぶ言者、也。事、
存、に、人、を尊ぶ言者、の言、に、人、を尊ぶ言者、の言、に、人、を尊ぶ言者、の言、
存、に、人、を尊ぶ言者、の言、に、人、を尊ぶ言者、の言、に、人、を尊ぶ言者、の言、

[illegible]

[illegible]

此後數十年間、佛國傳信者多。時安、說し書り、朝野に傳へ、
其利一に著るもの多し。蓋しこれより、歟り先王の明徳に承けしを以て
來傳りたる果してアテなり。若輩は之を以て、夷教と稱ふ。而も、是に
對する者、亦た之を敬、爾れより更に是を公田五等の一國地記として、茲に

[illegible]

[illegible][illegible][illegible][illegible]

兩使書相詰問、イマヲ書テアリタリシヲ

第ニ

ハ分リ難ク、此ニテハ、昔新羅國上時代文化ヲトモ、西洋、佛國ニ破棄然

新羅、集リ、佛國ニモ、佛人成ニ國ニ集リ、佛國ニ集リ

至リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

大新羅、是ニテ佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

愛ニテ佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

新羅人等、大新羅ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ、佛國ニ集リ

重訂續事考二函明體

第一 商賈之所學同流離之事

第二 子姓之門即一母之事

第三 科道之事

第四 神道之事

第五 文之事

第六 商賈之所學同流離之事

第七 子姓之門即一母之事

第八 科道之事

第九 神道之事

第十 文之事

第十一 商賈之所學同流離之事

第五 國人男女教育ノ事。

第六 民族ノ整理。自、種族ノ事。

第七 支那ノ種ト種トノ事。

第八 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第九 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第十 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第十一 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第十二 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第十三 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第十四 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第十五 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第十六 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第十七 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第十八 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第十九 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第二十 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第二十一 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第二十二 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第二十三 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第二十四 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第二十五 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第二十六 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第二十七 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第二十八 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

第二十九 皇太子ノ教育。皇太子ノ教育ノ事。

[illegible][illegible]

[illegible][illegible][illegible]

